

## 〈ウドの花〉

畑でウドの花が咲いている。数年前、ネイチャーゲームの仲間の実家（新潟県安塚）から頂いてきたものだ。初めて天然物のウドを食べた時（酔味増和え？）、その歯ごたえ、あふれんばかりの濃密な香りに思わずうなってしまった。これを、新潟まで行かずとも自分の畑で育てもう一度食べたいと欲望の塊が顔を持ち上げ、頂いてきたものだ。畑に植えて3年目の今年の春、初めて食べてみた。が、あの時食べた触感や香りにはほど遠い。美味しいのだが、野性味あふれる芳醇な味わいはなく物足りない。やはり、雪深く、きれいな空気と水、朝晩の寒暖差などいろいろな条件が重なってあの美味しいウドになるのだろう。“その土地だからこそその味になる”のであって、“手元に置いていつでも食べられる”などと言う浅薄で軽率な行動はゆめゆめ慎まなければならないと反省。



ウドは“ウコギ科”の植物なので、タラの木やコシアブラなどと同じだが、木ではなく草。“ウドの大木”というくらいで、1年で2mにもなってしまう。今回じっくり花を見たが、球状にまとまった花はまるで打ち上げ花火のよう。青空をバックに、“ポン・ポン、ポーン”と威勢よく、気持ちよく飛び出したウドの花火、見ているだけでスカッとす。しばらく観賞用として畑にいてもらうことにしよう。虫たちにとっては貴重な食用にもなるかもしれないので。

